

雑司が谷の郷土玩具 **すすきみみずく**

すすきみみずくを知っていますか？
 雑司が谷の郷土玩具として江戸時代より親しまれてきた、すすきの穂でつくられたみみずくの人形。鬼子母神へ毎日お参りしていた娘への「お告げ」から誕生したという逸話があります。
 ※雑司が谷案内処で購入可能。



豊島区とみみずく・ふくろう

池袋と「ふくろう」に語呂が良いことなどから、ふくろうは、区のイメージと重ねられてきました。都電雑司ヶ谷駅近くの「みみずく資料館」や区役所での「ふくろうコレクション」の展示など、街中にふくろうやみみずくに関するスポットが点在しています。

昔の雑司が谷がかわい
**文人に愛された緑の土地
 都市化で川も暗渠に**

1933年の左の地図(豊島区発足直後)と地下鉄「雑司が谷駅」のできた現在の右の地図を比べると、大きな変化が見受けられます。池袋東口にあり、詩人三木露風(みきろふう)が住んでいた根津山は削り取られ、護国寺に向かうグリーン大通りとなり、巢鴨刑務所はサンシャインシティへと変わっています。また、雑司が谷を流れ下っていた弦巻川は暗渠となっています。江戸のころには太田蜀山人(おわたしよかんじん)ら文人に愛された緑の土地でした。

現在の雑司が谷がかわい
**歴史の深い懐に抱かれた
 そぞろ歩きに「発見」が**

江戸時代を偲ばせる鬼子母神参道の榎並木、法明寺の桜。郷土玩具「すすきみみずく」も今に伝えられ、霊園の東西には「旧宣教師館」「みみずく資料館」もあり歴史の懐の深さが今も残っています。芭蕉の高弟である雪中庵嵐雪(せっちゅうあんらんせつ)や新劇運動の秋田雨雀(あきたうじゃく)などの眠る周辺の寺に訪れる人も多く、そぞろ歩きに発見がある町です。近くには、中央図書館もあり、散策帰りに歴史書などをひも解いてみてはいかがでしょうか。



新庁舎と雑司ヶ谷霊園

豊島区お散歩シリーズ

雑司ヶ谷霊園MAP



「番地入新大東京市三十五区分図之内 豊島区詳細図」(部分 1933年発行)
 (豊島区立郷土資料館編集「豊島区地域地図 第1集」(1987年発行)所収のものを使用)

雑司が谷案内処



開館時間: 10:30~16:30
 休館日: 毎週木曜日(祝日の場合開館)・年末
 周辺のおすすめスポットのご案内・グッズの販売・雑司が谷ゆかりの作品の展示やボランティアガイド(有料・事前申込制)の紹介も行っています。詳しくはお問い合わせください。
 電話番号: 03-6912-5026

雑司ヶ谷霊園

御料地として、3代將軍家光の寛永15年(1638)に薬草栽培の御薬園となり、8代將軍吉宗の享保4年(1719)には御鷹部屋に変わり、將軍の鷹狩りに使う鷹の飼育場所として使われていたところです。御鷹部屋時代の松の大樹が今も霊園内に残っています。明治7年(1874)9月1日に東京府によって共同埋葬地となりました。現在の地番は南池袋四丁目25番。広さは約10万㎡です。

- 都電雑司ヶ谷駅から徒歩すぐ
- 池袋駅から徒歩20分
- 東池袋駅から徒歩5分
- 副都心線雑司が谷駅から徒歩10分

発行: 豊島区文化観光課
 東京都豊島区南池袋2-45-1
 TEL: 03-3981-1316 FAX: 03-3980-5160
 E-mail: A0014503@city.toshima.lg.jp
 執筆: 伊藤栄洪(豊島区図書館専門研究員、元区史編纂委員)
 イラスト: 矢口由美子(デザイン室あとりえ)
 霊園問合せ: 雑司ヶ谷霊園管理事務所 TEL 03-3971-6868
 2008年3月発行(初版) 2016年7月発行(第5版)
 発行部数: 累計18万部(第5版発行部数: 3万部)
 豊島区観光案内ホームページ
<http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/kanko/>



東京都立 雑司ヶ谷霊園MAP

～霊園は故人が眠る慰霊の場所です。節度を持った行動をお願いします～

享楽に生きた反骨。
永井荷風 ながいかふう (1879～1959)
1-1号7側3番

墓を作るなら「浄閑寺に」と言っていた荷風の墓が父久一郎(禾原・かげん)と並んでいる。時代に背を向けて江戸趣味を追い、上田敏の言う「真の享楽主義者」としての生を貫いた。『柳橋新誌(りゅうきょうしんし)』の成島柳北を深く慕った。



日本びいきのコスモポリタン。
小泉八雲 こいずみやくも (1850～1904)
1-1号8側35番

父はアイルランド人、母はギリシャ人。アメリカで新聞記者などをしたあと来朝して帰化。東大講師時代、哲学の講師ケーベルと同僚であった。講師辞任の時、小説家の武林無想庵(たけばやしむそうあん)らが留任運動をした。

開明派の「最後の幕臣」。
小栗忠順 (おぐりただまさ・上野介) (1827～1868) 1-4号B5側35番

「明治の父」と司馬遼太郎が言う、幕末の開明派の幕臣。「日米修好通商条約」批准で渡米。その随行艦「咸臨丸」には勝海舟、福沢諭吉ら。中濱(ジョン)万次郎が通訳をした。岩瀬忠震(いわせただなり・肥後守)も開明派の幕臣。



心やさしい言語学者。
金田一京助 きんだいちきょうすけ (1882～1971) 1-22号5側24番
アイヌ語また、アイヌの叙事詩『ユーカラ』の発掘や言語研究で業績を残す。若い日に新詩社の『明星』に加わり短歌に親しむ。中学の後輩石川啄木を短歌に誘い、物心両面で支えた。この『明星』には一時、歌人窪田空穂も加わっている。



誠実に愛し、尽くした。
泉鏡花 いずみきょうか (1873～1939) 1-1号13側33番
10歳で失った母の鈴を生涯追慕し、師の尾崎紅葉を神格化するほどに仕えた。芸者(本名すず)との結婚を紅葉に反対されたいきさが小説『婦系図(おんなけいず)』に。新派の舞台で多くの人の涙を誘った。名優喜多村緑郎もここに。



理想を教育・出版で。
羽仁もと子 はにもとこ (1873～1957) 1-1号10側42番
キリスト教徒として、西池袋に新しい教育を目指して自由学園を創立。当時の校舎、明日館(みょうにちかん)はフランク・ロイド・ライトの設計で国の重要文化財。雑誌『婦人之友』を創刊。彼女の学んだ「明治女学校」には大塚楠緒子(おおつかすおこ)も通い、女医第一号の荻野吟子はその学校の校医。



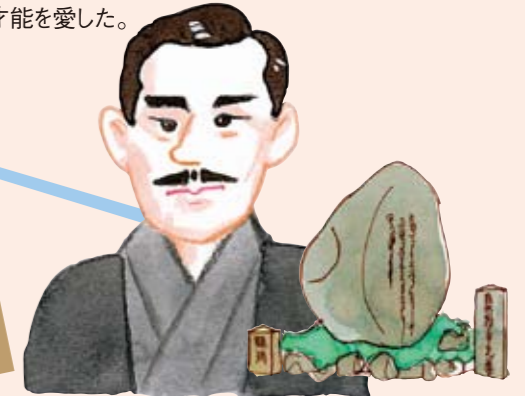
「あの人」との対話を一。

霊園を訪ねて、心に思う泉下の「あの人」との対話を楽しんでみませんか。このマップは人の連環を巡って「点」が「線」となるように、墓石の位置を数字で表しました。「都電雑司ヶ谷」停留所近くの入り口から歩く順になっています。数字をたどると、つながり合う人たちに交わされる会話まで聞こえてくる気がします。その会話も楽しんで…。

あふれる詩の才能。
サトウハチロー (1903～1973) 1-5号25側25番
戦前の「二人は若い」、戦後の「リンゴの唄」の流行歌で圧倒的な人気を生んだ詩人。若い日の無頼を心配した小説家の父紅緑は、現在の豊島区上池袋三丁目に世帯を持たせた。ラジオドラマ「君の名は」の脚本家菊田一夫も同居。



松井須磨子と芸術座。
島村抱月 しまむらほうげつ (1871～1918) 1-16号2側12番
早大教授。自然主義文学を唱導。松井須磨子と芸術座を興す。「早稲田の二秀才」と並び称された網島梁川、親友の金子馬治(哲学者)、須磨子を巡って対立した東儀鉄笛(早大校歌の作曲者)。竹久夢二の才能を愛した。



漂流で運をつかむ。
中濱(ジョン)万次郎 なかはままんじろう (1827～1898) 1-15号19側1番
土佐(高知県)中浜村の出身。14歳での出漁で遭難し、アメリカ船に助けられ米国に渡る。米国で航海術などを学び、その新知識と英語力で重用され、通訳としても活躍。



明治期、最高の人気作家。
夏目漱石 なつめそうせき (1867～1916) 1-14号1側3番
当時の雑誌『太陽』が募集した文化人の人気投票で毎年第一位。『こころ』に雑司ヶ谷霊園を描く。小泉八雲が東大を去った後の東大講師。親友の中村是公(東京市長)や、大塚保治と妻の楠緒子、門下の森田草平、敬愛したケーベルも。

大正ロマンの叙情画。
竹久夢二 たけひさゆめじ (1884～1934) 1-8号9側32番
「大正ロマン」を代表する画家であり詩人。「夢二式」の美人画や『宵待草』などの叙情的な詩歌が大流行。若い日に雑司ヶ谷に住む。島村抱月に目をかけられ、また羽仁もと子の「婦人之友社」で絵画主任、さし絵を描く。墓の文字は画家の有島生馬。

